六ヶ所村立郷土館事業 ふるさと歴史散歩

目代館・舘の上大砲場ツアー

日 時 11月3日(水・祝)9:30~12:30

※各自、自家用車で見学場所へ移動します。

内 容 泊地区にある中世の平山城と考えられている「目代館」と、江戸時代 に盛岡藩の海岸防備のため設置された「舘の上大砲場・御番所跡」を 見学します。



目代館遠景



舘の上砲台場跡から中山崎を望む

目代館は、蠣崎の乱の音波城か?

昭荷神社 空堀 町場? 明神川 大平洋 「青森県の中世城館」より引用



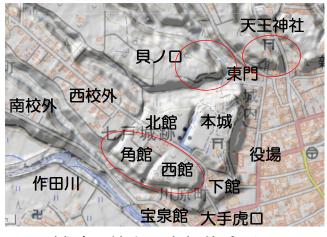
目代館跡 航空写真 国土地理院

目代とは南部の代官!

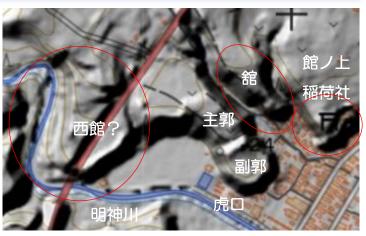
音波域ではるつ地画空の 音波ができます。 でいて洋台のにでのらがでいた。 でいて洋台のは、そ登世堀の神 をはよる。 をはまる事るやる西くてのらが埋し、 をはまる事るやる時にでのらが理した。 でいた地画空あ特れ現態 でいるのが空側。 でいるのが空側。 でいるのが空側。 でいるのがでののがで側。 でいるのがでののがで側。 でいるのがでののがで側。 でいるのがでののがで側。 でいるのがでののがで側。 でいるのがでののがでがでが、 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがである。 でいるのがでありる。 でいるのがである。 でいるのである。 でいるのでは、 でいるのでいるのである。 でいるのでは、 でいるのである。 でいるのである。 でいるのである。 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでのでいるのでいる。 でいるのでは、 でいるのでのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいるのでい。 でいるのでいるのでいるのでい。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでい。 でいるのでいるのでいる。 でいるのでいるのでい。 でいるのでいるのでいる。 でいないるでいる。 でいるのでいないでいない。 でいるのでいない。 でいるのでい。 でいないないでい。 でいな

南には、明神川が流れ、北の稲荷神社も関連した施設といわれ、その間に町場が発達していたと思われる。

目代館は、多郭構造の平山城か? モ戸城とそっくり!



七戸城跡 航空写真起伏陰影図 国土地理院 HPより引用 1975年



目代館跡 航空写真起伏陰影図 国土地理院 HPより引用 1975年

中世の南部氏は、多郭構造の城づくりを得意としていた。七戸町にある七戸城は、まさに多郭構造の平山城である。

- ①南に**作田川** ②北東に**天王神社** ③その間が**貝ノ口** 目代館に当てはめると、
- ①南に明神川 ②北東に稲荷神社 ③その間に舘がある。

東に役場や町場があり、虎口も南側にあることまで同じである。七戸城の本丸は北舘ではないかといわれていて、そうなると目代館の主郭と副郭の関係と同じになる。

ますます目代館の西側が気になる。残念ながら 338 号線のバイパスが貫いていて、家が建てられているが、七戸城の西 舘や角舘のような郭や舘があったように推測される。まさに、 七戸城と似ている多郭構造や南部氏の代官を表す「目代」の 舘といわれていることも何らかの関連が考えられる。



三段になっている主郭



東側の空堀



南側の竪堀